

貿易統制法ニ基ク組合ノ設立ニ關スル件

◎康徳六年二月十五日經濟部令第六號

茲ニ貿易統制ニ基ク組合ノ設立ニ關スル件ヲ左ノ通制定ス

貿易統制法ニ基ク組合ノ設立ニ關スル件

- 第一條 貿易統制法第四條第一項ノ規定ニ依リ組合ノ設立ヲ命ズル場合ニ於テハ經濟部大臣ハ豫メ當該組合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ統制スベキ物品ノ種類及組合員タルベキ者ノ資格ヲ告示ス
- 第二條 前條ノ告示ニ於テ指定セラレタル資格ヲ具フル者ハ速ニ其ノ旨ヲ經濟部大臣ニ申告スベシ
- 第三條 經濟部大臣ハ前條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル者ニ付組合員タルベキ資格アリト認メタルトキハ其ノ者ニ對シ貿易統制法第四條第一項ノ規定ニ依リ組合ノ設立ヲ命ズ前條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲サザル者ニ付經濟部大臣ニ於テ組合員タルベキ資格アリト認メタルトキ亦同ジ
- 第四條 組合ハ其ノ設立後遲滯ナク左ニ掲グル事項ヲ記載シタル報告書ニ定款及創立總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ之ヲ經濟部大臣ニ提出スベシ
 - 一 事業計畫
 - 二 組合ノ負擔ニ歸スベキ創立費及其ノ償却方法

- 三 經費ヲ組合員ニ分賦スル組合ニ在リテハ其ノ經費ノ初年度ノ收支豫算五分賦收入方法
- 四 理事及監事ノ氏名及住所
- 五 組合員ノ氏名又ハ名稱及住所又ハ主事務所ノ所在地
- 第五條 經濟部大臣必要アリト認ムルトキハ組合ノ理事又ハ監事ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ
- 第六條 組合ニ於テ組合員ノ營業ニ關スル輸出又ハ輸入ノ統制ヲ行ハントスルトキハ其ノ方法及内容ニ付總會ノ議決ヲ經タル上經濟部大臣ノ承認ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

滿洲重要物産組合 (鐵道總局「貨物輸送月報」第十卷第九號ヨリ)

大連ハ滿洲最大ノ門戸デアル。最大ノ輸入港デアルト共ニ、最大ノ輸出港デアリ、最近年間四千隻以上ノ汽船、一千隻以上ノ發動汽船ト戎克ガ入港シ、時々ノフル・パスニ沖待數十隻ノ盛況ヲ示シテ居ル。滿洲建設ノ進行譜ニ伴フ建設資材、食料品、雜貨ノ輸入激増ト之ニバランスヲトル輸出ノ好調ガアルカラデアル。大連カラノ輸出ハ所謂滿洲特産ヲ最トスル。昭和十三年度ヲ採ツテ見レハ總輸出量五百三十七萬六千噸ノウチ五十六%ニ當ル二百九十七萬噸ハ農産

品及之方製品タル所謂特産デアル。埠頭ノ殷盛ハ素ヨリ大連市ノ繁榮モ特産ニ負フトコロ至大デアル。大連ハ正ニ滿洲最大ノ特産市場デアリ、集散地デモアルカ、ココニ陣取ツテ滿洲特産界ニ支配的勢力ヲ揮ツテ居ルノガ社團法人滿洲重要物産組合デアリ、ソノメンバーデアル。

大連埠頭カラ港橋ヲ渡ツテ眞正面ニ傲然ト突立ツテ居ル灰白色ノビルディング、コノビルディングノホールデハ擊析ノウチニ手ヲ振ツテ特産ノ流ニ對シテ經濟的辨膜ノ活動ヲシテ居ルコトハ誰モ知ルトコロデアアルガ、大連在住ノ特産取扱業者及之ト密接ノ關係ヲ有スル者トガ斯業ノ改善發達及其ノ共同ノ利益増進ヲ目的トシテ結成シタ滿洲重要物産組合ガアリ、コレガ特産界ニ於ケルボスの存在タルコトハ議會ニ堂々タル議事堂ノミガ目ニツイテ、政黨ノ存在ヲ知ラヌ程ノ認識ニハ遂見逃サレ勝デアル。ダガコノ組合トコヤラノ政黨流ト事異ヒ、大連商團ノ發達ニ盡スコト大デアリ四圍情勢ノ變化甚シイ今日ノ時、特産界ニ於ケル發言機關トシテ重キヲ爲シ、鐵道トノ關係ニ於テモ一般陳情ヲ通シ又軍トノ關係ニ於テモ統制輸送ニ特産中央會ヲ通シ緊密ナル連絡ヲ必要トシ常ニ特産ヲ之等機關ニ連繫セシメルコトニ努メテ居ルノデアアル。特産ハ只ニ大連關係ノモノノミデハナイカ、全滿ニ動ク特産ハ約其ノ八十%程度ヲ同組合加入者ガ受扱ツテ居ル關係カラ統制輸送トノ關係モ重要デアルト思ハネバナラヌ。滿洲ト云ヘバ先ヅ特産ト云ツタ沿革カラ、マタ其ノ組合結成ノ歴史カラ、ソシテ特産界ガ波瀾ニ見舞ハレテ居ル現況カラ、先ヅ統制輸送ヲ繞ル諸機關ノ第一ニ持ツテ來タワケデアアル。

コノ滿洲重要物産組合ノ誕生ハ明治四十年滿鐵ガ設立サレタノト同年デアアルカラ、組合トシテハ滿洲ニ於ケル最古ノ部

類ニ入ル。ト云ヘルガ、當初ハ滿洲重要物産組合ト云ハズ大連特産物輸出組合ト云ツタ。當時大連ノ商權ハ全ク支那人ガ掌握シテ居タノデ、之ヲ日本人ノ手ニ收メルトイフ遠大ナ考方カラ結成シタノデアアルガ、單ニ輸出組合ダケデハ機能充分ナラズトシテ一方ニ大連埠頭構内ノ一部ヲ滿鐵カラ借受ケテ特産取引人集会所ヲ作り、事實上ノ取引所トシ、更ニ之ヲ合歩的ナ取引所ニスル爲ニ、明治四十二年組合ヲ社團法人ニシテ會員三十人許リデ滿洲重要物産同業組合トシタガ申請ノ結果ハ取引所ハ官營ニスルトイフ方針ノ下ニコレハ拒否サレ、組合ハ出鼻ヲ挫カレタ。……ダガ……其ノ當座ハ現物ニ限ラレタカラ官營理論モアツタガ、取引ガ大量ニナルニ從ツテ必然先物ノ上場ガ問題ニナツタ。トコロガ先物トナレバ完全ナ定期、何ウ變ハルカモ知レヌ何箇月カノ先ノ取引ハ會計法ニ牴觸スルコトニナリ、ソコデ取引所信託會社ガ生レテ中ニ入ツテ官營取引所ガ出現シタ。コウシテ組合ハ色々ノ周邊機關ヲ分峰シテ行ツタガ、ソレ自體トシテモ混合保管制ヲ率先提唱スルナド滿洲特産界ニ盡スコトガ甚大デアツタ。組合現在ノ定款ハ大正十年ノ改正デ、同時ニ「同業」ヲ削ツテ内包擴大ヲ行ツタノデアアル。現在組合ノ活動ハ其ノ定款ニアル如ク

第三條 本組合ハ組合員共同利益ノ増進、滿洲重要物産取引方法ノ改善並斯業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

其ノ業務ノ概要左ノ如シ

- 一 滿洲重要物産ノ商取引ヲ圓滑ナラシメ取引方法ノ改善ヲ圖ルコト
- 二 滿洲重要物産ノ輸移出貿易並加工工業ノ發達ヲ圖ルコト
- 三 滿洲重要物産ノ收穫増加並品種改善ヲ圖ルコト

- 四 滿洲重要物産ノ集散、取引、相場等ニ關スル日報、月報、年報其ノ他諸般ノ調査報告ヲ發行スルコト
 - 五 滿洲重要物産商取引ノ紛争ニ關シ仲裁調停ヲ爲スコト
 - 六 滿洲重要物産商取引ニ關シ不正取引矯正ノ方法ヲ講ズルコト
 - 七 官公署其ノ他ノ諮問ニ應ズルコト
- トナツテ居ル。

組合自體ハ書面ヲ以テ申込ミ、常議員會ノ承認ヲ得ルト同時ニ加入金壹百圓ヲ組合事務所ニ納入スルホカ時々一定ノ手續ヲ經テ組合賦課金ノ負擔ヲ爲ストコロノ組合員カラ成ツテ居ル。役員トシテハ十二名以内ノ常議員ト、常議員中カラ總會ニ於テ選舉サレテ組合長タル理事一名、別ニ組合員タル理事二名、會計監査員二名ガアリ、決議機關トシテハ總會ト常議員會トガアル。組合ノ事務機關トシテハ主事一名、書記長一名、書記若干ガアリ、事務所ヲ山縣通三井ビルノ横ニ置キ、大連在住錚々ノメンバーヲ以テ、其ノ陣容ヲ張り多分ノ公益性ヲ持ツタ機關トシテ居ルノデアル。其ノ顔ブレハ左表ノ如クデアル。

組合結成當時ニ於テハ勿論ノコト其ノ後長イ間滿洲ニ於ケル特産界ハ滿鐵ガ開拓ノ指導機關デアッタト等シク彼モ亦斯界ノ指導機關トシテ活動セザルヲ得ナカツタ。

滿洲重要物産組合員名簿

昭和十四年三月末現在(二十五)

組合事務所

大連市山縣通百九拾四番地

店 舗 所 在 地	組 合 員 名	代 表 者 氏 名
理事組合長	大連市山縣通一八二	大塚 俊 雄
同副組合長	同 寶町三	本 多 兵 一
同	同 近江町一六	曲 子 源
常 議 員	同 山縣通四九	中 谷 國 之 助
同	同 二	平 野 三 雄
同	同 浪速町一丁目二	劉 逢 源
同	同 山縣通一二四(大連取引所内)	田 村 羊 三
同(會計監査員)	同 一三七	瓜 谷 長 造
同	同 二二二	酒 井 清 兵 衛
同	同 初瀬町一	廣 瀨 金 藏
同	同 山縣通一六四	增 田 昇 二
組 合 員	同 鑑部通四九	石 田 榮 造
同	同 奧町一六(山田商店内)	金 井 佐 彦
同	同 加賀町五七	奧 商 店 壽

同	同	淡路町一	加藤襄商店	眞鍋登
同	同	彌生町四六	勝間商店	勝間良太郎
同	同	山縣通四四	中島商店	中島常次郎
同	同	神明町四	中村仲太郎商店	中村仲太郎
同	同	山縣通五五	滿洲共益社	西澤源一郎
同	同	同 二二二	株式會社福昌公司	相生常三郎
同	同	越御町六	澤田組	澤田賢太
同	同	寺兒溝一四	滿洲大豆工業株式會社	千秋寛
同	同	敷島町六一	裕發祥	黃潤生
同	同	加賀町五二	秀生洋行	水谷一雄
同	同	山縣通二二二	成發東	宗像金吾

ソレガ滿洲農民ノ利益デアルト共ニ貿易ヲ主トスル組合員ノ利益デアッタ。ソノ爲ニ品質改善、増産等ノ事ニ關シテ意ヲ注ガネバナラナカッタガ、滿洲國ノ機關ガ整備シテ正面ノ指導機關ガ生レコノ方面ニ對スル努力ガ側面的ナモノニナルト共ニ、滿鐵ニ於テモ既ニ情勢ニ應ズル諸既設ヲ一應完了シタノデ、直接指導ノ範圍ガ狭リ今デハ組合ノ事業ハ特産物ノ輸出方面ニ關スル團體的交渉ニ重點ガ移リ、滿洲内ノ關係ニ於テハ滿洲國政府及滿鐵ニ對スル請願又ハ建議等ガ主

ニナツタ。

ソコデ鐵道トノ關係デアルガ---

貨物統制輸送ニ於テ、特産ハ其ノ數量ガ大デアル關係カラ重要ナル地位ヲ占メテ居ルノデアアル。勿論之ガ輸送計畫樹立ハ軍ノ管掌スルトコロデアアルガ、常ニ新京ニ於ケル特産中央會ガ仲ニ立テ實情具申ヲナシテ計畫ノ鍵ヲ與ヘル。然シ特産中央會ハ業界ニ直接スルコト本組合ノ如クデナク、從ツテ勢實情具申ノ材料ハ本組合ガ提供スルノデアアル。中央會ノメンバーハ滿洲國ト滿鐵トガ中樞ヲ占メテ居ルガ、特殊產業界機關モ包含シテ居ルノデアッテ、之ヲ通ジテ本組合ノ意見モ統制輸送ニ繫ツテ來ルノデアアル。常ニハ多ク強硬デハナイガ、愈々トナレバ中央會ニ頭ヲ突込ンデ實情具申ノ角度カラ大イニ頑張り得ル可能性ヲ持ツテ居ルノデアアル。

斯クシテ決定シタ特産ノ輸送ニ對シテモ其ノ實行ニ當ツテ組合ハ輸送ニ時々交渉ヲ持ツテ來ル。トイフ譯ハ輸送ハ貨物ノ品種ト數量トヲ決定スルガ、ソレハ一定ノ單位期間内デアリ、取扱業者個人及個有ノ貨物ニ拘束サレナイカラ、組合トシテハ其ノ組合員相互間及個有ノ貨物間ニ先後緩急ノ必要アル場合ニハ融通範圍内デノ處置ヲ希望シテ來ルノデアアル。例ヘバ混保貨物ト其ノ他雜穀トク振合トガ、雜穀相互間ノ輸送順位ノ變更、數量ノ按配發著地ノ變更トガデアアル。アウト・サイダーノ場合ハ別ナ考慮ヲ要スルガ、組合員ノ場合ハ組合ガ組合員相互間ノ調停機關トシテ約束ツケラレテ居ル理論カラ、書記長其ノ他組合事務機關ノ申出ヲ持ツテ判斷ノ基準トシテヨイノデアアル。其ノ他一般陳情トシテ防濕用具ノ施設等屢々アルガ直接輸送關係トシテハ先ヅソコナトコロデアアル。

貿易ハ組合ノ最大ノ眼目デアリ活動ノ分野ガ廣イ。メンバーノ顔觸ヲ見レバ一目デ分ル世界中ニ商網ヲ張ツテ居ル有カメンバーガアリ、之ガ大量ノ商談ヲ成立サセル。成立シタ商談ニ對シテ現物積出シニ組合ガ組合員間ニ立ツテ調整ノ機能ヲ發揮スル許リカ組合トシテ團體的ノ交渉ヲ行フコトガアル。對獨輸出大豆何十萬噸トイフヤウナ場合組合ガ中心ニ立ツテ關係機關ト折衝セネバナラナイ。兎ニ角特産ノ貿易ニ關シテハ組合ト其ノ組合員ハ非常ナ勢力ヲ持ツテ居ル。

最近滿洲ニ於テハ大豆ノ專管制ガ實施サレタ。混保大豆ニ對シテ專管公社ガ買上ヲ行フモノデ、之ニ依テ規格品ノ專賣的制度ガ出來タガ、コノ結果ハ相場ノ浮沈ニ揖シテ甘味ヲ喫スル爲ノ取引所ガ不用ニナリ、國內買入ト海外ノ差額デ味ヲ占メル貿易業者ノ業界ガ狭マリ、拂下ゲヲ受ケテ取次ニ轉落スル虞ガアル。大連ガ新京ニ壓倒サレタト業界ノ一角カラ悲鳴カ上ルノハコレガ爲デアリ、從ツテ貿易ヲ主タル使命トスル本組合モ大イニ影ヲ薄クスルノデアル。然シ何ト云ツテモ特産ノ海外事情ニ就イテ通曉スルコト天下獨歩ノ大連本組合デアル。統制ガドウ進ムデ行カウト無碍ニ之ヲ解滅スルガ如キコトハ想ハレヌ。何等カノ形ニ於テ他カラハ之ヲ利用シ、組合トシテハ自ラノ道ヲ發見シ拓イテ行クコトニナラウ。

大豆專管制ヲ繞ツテ特産界ニハ蘇聯ノ波國侵入ガバルト沿海諸國ヤバルカン諸國へ與ヘタ影響程ノ波瀾ヲ捲キ起ス影響ヲ與ヘテ居ル。大豆ガ專管サルレバ緣ニ繋ガル豆粕ト豆油トガ當然問題トシテ組上ニ上ル。更ニ雜穀サヘガ組上ニ上ル傾向ヲ多分ニ有スル。本原稿執筆中ニモトコ迄進展シテ行クカモ知レナイ情勢デアルガ、先ヅ現在迄ノ情勢ハ右ノ如ク取引所重要物産取引人組合、油房聯合會ト共ニ大連ニ於ケル特産關係ノ三團體トシテ活動シテ來タノデアル。旱天續キダカラトテ、假ニモ飲料水ガ問題ニナル程ノ地ニ鐵道ト埠頭ノ施設ヲ生カシテ港ニ空ヲ焦ガス汽船ヲ引キツケテ來ルコトニ大ナル寄與ヲナシテ來タノデアル。

統制ノローラーニ、自由主義ノ花園ガ何ウ形ヲ變ヘヨウカ其處ニ咲カシタ花ノ事實ハ不滅デアル。ソシテ傳統ノ力ハ簡單ナ系數デ押ヘラレズ一片ノ條理ヲ撥ネ返ヘシテ生キル。何ウ生キルカ、ソレガ滿洲重要物産組合ヘノ今後ノ期待デアル。

附

- 一、大豆、小麥、穀及落花生標準品解說
- 一、取引條件

大豆、小麥、穀及落花生標準品解說

理學分析內容(%)

一、黃大豆		二、改良大豆		三、白眉大豆	
等級	特等	一等	二等	特等	一等
完全粒	九三·〇	八六·〇	八一·〇	七四·〇	六八·〇
損傷粒	四·一	八·五	一一·一	九·〇	一三·〇
青豆	一·四	二·八	三·七	九·〇	一三·〇
黃豆	〇·五	〇·八	一·五	一〇·五	一四·〇
茶豆	〇·五	〇·八	一·五	一〇·五	一四·〇
黑豆	〇·〇	〇·一	〇·二	二·〇	二·五
夾雜物	〇·五	一·〇	一·〇	一·〇	一·五
完全粒 色澤	優	優	良	〇·五	一·〇
黃豆完全粒	六八·〇	七七·〇	七四·〇	六八·〇	六八·〇
黃豆完全粒	一九·二	二二·七	二二·〇	一〇·五	一四·〇
異品	六·三	四·四	二·三	一〇·五	一四·〇
黃豆完全粒	二·三	二·〇	二·〇	一〇·五	一四·〇
黃豆不完全粒	二·三	二·〇	二·〇	一〇·五	一四·〇
黃豆不完全粒	〇·四	〇·四	〇·四	二·〇	二·五
黃豆不完全粒	〇·四	〇·四	〇·四	二·〇	二·五
色豆	一·五	一·五	一·五	一·〇	一·五
夾雜物	可	可	良	〇·五	一·〇

大豆完全粒	異品完全粒	大豆不完全粒	大豆不完全粒	色豆	夾雜物
六五・〇	一七・〇	一一・〇	三・〇	二・〇	一・〇
四、間島大豆					
等級	品種名	完全粒	損傷粒	夾雜物	異品種
特等	鶴ノ子	九五・〇	二・〇	三・〇	
一等	改良	九三・〇	三・〇	四・〇	一〇・〇
二等	白目	九三・〇	二・〇	五・〇	一五・〇
三等	茶目	九三・〇	二・〇	五・〇	二〇・〇
四等	黒目	九四・〇	一・〇	五・〇	三〇・〇
五、小麥					
等級	小麥完全粒	小麥不完全粒	小麥殼附粒	夾雜物	備
特等	九七・〇	一・〇	〇・五	〇・五	小麥秤ニ依ル現物容積重 一八五瓦
一等	九四・五	二・〇	一・〇	一・五	小麥秤ニ依ル現物容積重 一八〇瓦
二等	九二・五	三・〇	一・五	二・〇	小麥秤ニ依ル現物容積重 一七五瓦

三等	九〇・五	四・〇	二・〇	一・〇	二・五	三・五	小麥秤ニ依ル現物容積重 一七〇瓦
四等	八八・〇	五・〇	二・五	一・五	三・〇	四・五	小麥秤ニ依ル現物容積重 一六五瓦

六、麩	種別	一〇メ	一二メ	一四メ	一六メ	二〇メ	二八メ	三五メ	四二メ	四八メ	六〇メ	六〇メ	六五メ	八〇メ
細目	荒目	二・四	一・一	七・四	五・六	一〇・二	二・三	三・三	一・六	〇・〇	一・一	五・五	三・〇	一・〇
七、落花生	種別	完全粒	不完全粒	畸形粒	夾雜物	備	考							
大粒	特選	一〇〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	二八・三五瓦ノ粒數	一三・五粒							
同	選別	九四・〇	一・〇	五・〇	〇・〇	二八・三五瓦ノ粒數	一五・五粒							
同	普通	九七・〇	三・〇	一・〇	一・〇	二八・三五瓦ノ粒數	一七・五粒							
小粒	特選	一〇〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇									
同	選別	九九・〇	一・〇	一・〇	〇・〇									
同	普通	九七・〇	三・〇	一・〇	一・〇									

同	普通	九七・〇	三・〇	一・〇	一・〇		
---	----	------	-----	-----	-----	--	--

〔註〕夾雜物ハ重量%、完全粒、不完全粒及畸形粒ハ粒數%ニ依ル
(二) 落花生仁

種別	等級	完全粒	割實	碎實	夾雜物	備考
大粒	特選	一〇〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	二八・三五瓦ノ粒數 三九・五粒
同	普通	八四・〇	一四・〇	一・〇	一・〇	二八・三五瓦ノ粒數 五〇・五粒
同	格下	七八・〇	二〇・〇	一・〇	一・〇	二八・三五瓦ノ粒數 六三・五粒
同	等外	六八・〇	二八・〇	二・〇	二・〇	二八・三五瓦ノ粒數 一〇九・五粒
小粒	特選	一〇〇・〇	〇・〇	〇・〇	〇・〇	
同	普通	六九・〇	二八・〇	二・〇	一・〇	

〔註〕完全粒、割實、碎實及夾雜物ハ重量ニ依ル
理學分析項目名稱ノ解説

一、黃大豆

項	目	名稱
一、完全	粒	クワンゼンリユウ
二、損傷	粒	ソンシヨウリユウ

解

說

完熟シ損傷ナキモノ但シ不實粒トノ見解困難ナルモノハ之ヲ完全粒ト看做ス
完熟、未熟ノ別ナク損傷アルモノ

黃豆

色	豆	名稱
色豆	(一) 蟲喰粒	ムシクイリユウ
	(二) 破碎粒	ハサイリユウ
	(三) 腐敗粒	フハイリユウ
	(四) 罹病粒	リビヨウリユウ
	(五) 變質粒	ヘンシツリユウ
	(六) 吸濕過膨粒	キユウシツクワボウリユウ
	(七) 胴割粒	ドウワレリユウ
色豆	三、不實粒	フジツリユウ
	四、青豆	アラマメ
	五、茶豆	チャマメ
	六、黑豆	クロマメ
七、夾雜物	キヨウザツブツ	

害蟲ノ爲喰害セラレタルモノ
破碎セルモノ
著シク變色變質セルモノ
病害ノ爲侵蝕セラレタルモノ
鬱蒸ノ爲赤變、變質セルモノ
吸濕ノ爲膨張セルモノ
胴部ニ龜裂ヲ生ゼルモノ
完熟セザルモノニシテ損傷ヲ被ラザルモノ
完全粒、不完全粒ノ別ナク粒ノ青色ナルモノ
完全粒、不完全粒ノ別ナク粒ノ茶色ナルモノ
完全粒、不完全粒ノ別ナク粒ノ黑色ナルモノ
大豆種實以外ノ物質

項

目

名

稱

解

說

黃豆完全粒
一、改良種
カイリヨウシユ

完熟セル改良種ニシテ損傷ヲ被ラザルモノ但シ改良種ト異品種トノ識別困難ナルモノハ改良種ト看做ス

二、異品種
イヒンシユ

三、損傷粒
ソシヨウリュウ

四、不實粒
フジツリュウ

五、色豆
イロマメ

六、夾雜物
キヨウザツブツ

完熟セル改良種ニ非ザル黄豆ニシテ損傷ヲ被ラザルモノ
完熟、未熟ノ別ナク損傷ヲ被リタル黄豆
完熟セザルモノニシテ損傷ヲ被ラザル黄豆
完全粒、不完全粒ノ別ナク粒ノ青色、茶色又ハ黒色ナルモノ
大豆種以外ノ物質

三、白眉大豆

項 目 名 稱

解

說

黄豆完全粒

一、白眉大豆
ハクビダイツ

二、異品種
イヒンシユ

完熟セル白眉大豆ニシテ損傷ヲ被ラザルモノ但シ白眉大豆ト異品種トノ識別困難ナルモノハ白眉大豆ト看做ス

黄豆不完全粒

三、損傷粒
ソシヨウリュウ

四、不實粒
フジツリュウ

五、色豆
イロマメ

六、夾雜物
キヨウザツブツ

完熟、未熟ノ別ナク損傷ヲ被リタル黄豆
完熟セザルモノニシテ損傷ヲ被ラザル黄豆
完全粒、不完全粒ノ別ナク粒ノ青色茶色又ハ黒色ナルモノ
大豆種實以外ノ物質

四、間島大豆

項 目 名 稱 解 說

說

一、完全粒
クワンゼンリュウ

二、損傷粒
ソシヨウリュウ

三、夾雜物
キヨウザツブツ

四、異品種
イヒンシユ

完熟シ損傷ナキモノ
損傷程度二分ノ一以上ノモノ
蟲喰粒ニシテ被害程度二分ノ一ヲ超ユルモノ及破碎粒、不熟粒、豆殼、石、土、其ノ他ノ夾雜物
當該銘柄以外ノ黄豆完全粒及色豆

五、小麥

項 目 名 稱

解

說

小麥

一、完全粒
クワンゼンリュウ

完熟シ損傷ナク稈附著セズ一・五耗ノ縦目篩ヲ通過セザルモノ但シ不實粒ト雖モ一・五耗ノ縦目篩ヲ通過セザルモノハ完全粒ト看做ス

二、不完全粒

(一)不實 ○
フジツリュウ

(二)損傷粒
ソシヨウリュウ

1、蟲喰粒
ムシクイリュウ

2、破碎粒
ハサイリュウ

3、腐敗粒
フハイリュウ

完熟セザルモノニシテ損傷ナク稈附著セズ一・五耗ノ縦目篩ヲ通過スルモノ但シ完熟シ損傷ナク稈附著セザルモノト雖モ一・五耗ノ縦目篩ヲ通過スルモノハ不實粒ト看做ス
完熟、不實粒ノ別ナク損傷ヲ被リタルモノ
害蟲ノ爲喰害セラレタルモノ
破碎セルモノ
著シク變色變質セルモノ

4、變質粒	ヘンシツリユ	鬱蒸ノ爲赤變、赤質セルモノ
5、胴割粒	ドウワレリユウ	胴部ノ龜裂ヲ生ゼルモノ
6、罹病粒	リビヨウリユウ	黒穂病ヲ除ク病害ノ爲侵蝕セラレタルモノ
三、穀付粒	カラツキリユウ	稈ヲ被リタルモノ
四、夾雜物	キヨウザツブツ	黒麥及其ノ他ノ夾雜物
(一) 黒麥	ライムギ	黒麥
(二) 其ノ他ノ夾雜物	ソノタノキヨウザツブツ	黒麥ヲ除ク小麥粒以外ノ物質竝ニ小麥ノ黒穂被害粒及發芽粒
六、落花生		

(一) 穀附落花生

項 目	名 稱	解 說
一、完全粒	クワンゼンリユウ	完熟シ形状、色澤正常ニシテ損傷ナキモノ但シ不完全粒トノ見解困難ナルモノハ之ヲ完全粒ト看做ス
二、不完全粒	フクワンゼンリユウ	穀ノ變色セルモノ又ハ損傷ヲ蒙リタルモノ及糞
三、畸形粒	キケトリユウ	一粒夾、三粒夾及形狀不良ノモノ
四、夾雜物	キヨウザツブツ	穀附落花生以外ノ物質
(二) 落花生		

項 目	名 稱	解 說
一、完全粒	クワンゼンリユウ	糞ニ非ザル仁ニシテ損傷ナキモノ
二、割實	ワレミ	二ツ割乃至四ツ割ノモノ但シ仁ノ表皮六分以上離脱セルモノ及蟲喰粒ニシテ被害程度四ツ割程度以下ノモノハ之ヲ割實ト看做ス
三、碎實	クダケミ	四分割(一ツ割ノ六分缺)以上ノモノ但シ蟲喰粒ニシテ被害程度四ツ割程度ヲ超ユルモノハ碎實ト看做ス
四、夾雜物	キヨウザツブツ	落花生種實以外ノ物質及糞

滿洲特產物取引規約 (昭和十四年七月十七日決定)

滿洲特產物東京輸入卸商組合

第一章 總 則

第一條 賣買契約書ノ摘要ニハ單ニ「滿洲特產物東京輸入卸商組合ノ規約及商慣習ニ據ル」ト記入シ各自任意ノ記載ヲナササルモノトス

第二條 受渡上ニ稱スル營業時間トハ午前九時ヨリ午後五時マデ一日八時間トス但シ日曜日、祝祭日及市場休日ハ休日トス

第三條 賣主ハ約定品積取船出帆通知ノ電報接受次第遲滞ナク品名、數量、契約月日、積出港、船名、出帆日、積出人、口數、輸入者及ビ着電時間等ヲ明記シタル出帆案内書ヲ作成シ買主ニ交付スルニアラザレバ荷渡ヲナスコトヲ得ス

但シ着電時間後二十四營業時間ヲ經過セル出帆案内書ヲ以テ荷渡通知ヲナサントスルトキハ買主ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

二〇二

第四條 積出期日ヲ定メタル契約ハ積取船ノ出帆日ヲ以テ積出日トシ入船期日ヲ定メタル契約ハ積取船カ指定港ノ行政區劃内ニ到着シタル日ヲ以テ入船日トス

第五條 日滿倉庫株式會社川崎埠頭岸壁ハ之ヲ橫濱港ト見做ス

第六條 買主ニ於テ「インボイス」ノ提示ヲ求メタルトキハ賣主ハ其ノ要求ヲ拒ムコトヲ得ズ

第二章 大豆 粕

第七條 大豆粕「インボイス」取引ノ受渡ニ供用シ得ル大豆粕ハ滿洲國ニ於ケル重要特産物検査ニ合格シタルモノニシテ大連營口安東縣及北鮮各港積出品トス但シ北鮮各港積出品中ニハ滿鐵混合保管検査ニ合格シタル北鮮製油株式會社製品ヲ含ム

第八條 荷受人ガ組合員ニアラザルキハ船荷證券又ハ荷渡指圖書引換ニ「インボイス」記載ノ量目ヲ以テ代金ノ受拂ヲナスモノトス

第九條 不可抗力又ハ船主ノ都合ニヨリ同一船艙内ノ積荷ノ一部ヲ他ニ移動シ若ハ積換ヲナシタルトキハ橫濱沖取ノ際現存セル破碎及目切ニ付テハ之ヲ四十六斤ニ換算シ約定値段ニヨリ左ノ通負擔スルモノトス

一 破碎ニ付テハ其ノ數量ノ二分ノ一ニ對シ賣主ニ於テ五分ニ相當スル金額ノ値引ヲナスコト

二 目切ニ付テハ其ノ數量ニ對シ賣買双方ニ於テ折半負擔スルコト

第十條 産地積出後他港ニ先航シタル船舶ニシテ其ノ積載シタル大豆粕ノ一部ヲ陸揚ゲシタル場合ハ其ノ同一船艙ニ積合セタル大豆粕ニシテ橫濱沖取ノ際生シタル目切ニ付テハ賣主ニ於テ之ヲ辨償スルモノトス但シ境界ノ明カナルモノハ此ノ限りニアラズ

第十一條 受渡ニ供用スベキ大豆粕ノ積取船ハ仕向港ニ向ケ順路航海スベキモノナルヲ要ス但シ左記ノ場合ハ順路ニ依ラサルモ差支ナシト雖モ直チニ買主ニ其ノ旨通知スルヲ要ス

一 不可抗力ニヨル逆航又ハ迂回

二 九州諸港ニ寄港スルタメノ迂回

三 大連營口及安東縣ヨリ同一船ニテ積取ル際逆航トナル場合

第十二條 積取船産地出帆後賣主ヨリ買主ニ對シ荷渡通知ヲナシタル後天災又ハ不可抗力ニヨリ輸送中ノ該契約品ノ一部又ハ全部ガ滅失シ若ハ損傷甚シキトキハ保險會社ニ委附セラレタル場合ハ其ノ滅失又ハ委附セラレタル部分ニ付テハ賣買契約ヲ無償解約スルモノトス

第十三條 六日積出ハ特約ナキ限り其ノ月初ヨリ二十日迄ニ産地ヲ出帆スル直航船ニ積載スルコトヲ要ス

第十四條 約定値段トハ之ヲ一枚ニ換算シタルモノニシテ沖取費用ヲ含マサルモノトス

第三章 大豆及雜穀

二〇三

第十五條 大豆及雜穀類ノ品名、容量、包裝、及積出港ハ特約ナキ限り左表ニヨルモノトス

品名	品	質	容量(正味和斤)	包裝	積出港
黃大豆	滿洲國重要特產物検査合格一等品		百四十斤	麻袋	大連、營口、安東縣、北鮮各港
白眉大豆	滿洲國重要特產物検査合格品(精選)		九十八斤七分	麻袋	大連、營口
走小豆	產地當該年度產標準品		百六十斤	新麻袋	大連、營口、北鮮各港
雜小豆	同	上	百六十斤	新麻袋	大連、營口、北鮮各港
磨赤小豆	精	選	百斤	新麻袋	大連

第十六條 賣買ノ健値ハ正味和百斤ヲ以テシ賣買數量ノ單位ハ特約ナキ限り滿貨一車(約參拾貳)トス

第十七條 黃大豆及白眉大豆以外ノ雜穀「インボイス」取引ノ受渡ニ於テハ「インボイス」面記載ノ斤量ニ對シ百分ノ一以內ノ缺斤ハ買主ニ於テ之ヲ容赦スルモノトス

第十八條 前條ノ場合買主ニ於テ百分ノ一ヲ超ユルノ惧レアリト認メタルトキハ遲滯ナク賣主ニ通知シ其ノ立會ヲ求メ之ヲ改買シ缺斤量ヲ算出協定スルモノトス但シ此ノ場合改買ニ要シタル諸費用ハ缺斤量百分ノ一以內ナリシトキハ買主ニ於テ之ヲ負擔シ百分ノ一ヲ超ヘタルトキハ賣主ニ於テ之ヲ負擔スルモノトス

前記ノ場合買主ガ賣主ノ立會ヲ求メズシテ改買シタルトキハ賣主ハ其ノ缺斤ニ對シ賣ヲ負ハザルモノトス

第十九條 沖着本船「インボイス」渡又ハ限月積出ヲ以テ河岸着若ハ貨車乘賣買ヲナシタル雜穀ニシテ其ノ積取船ガ産

地ヲ出帆シ賣主ヨリ買主ニ之ガ荷渡通知ヲナシタル後天災又ハ不可抗力ノタメ輸送中ノ該契約品ノ一部又ハ全部ガ滅失シ若ハ損傷甚シキ爲メ保險會社ニ委附シタルトキハ其ノ滅失又ハ委附セラレタル部分ニ付テハ賣買契約ヲ無償解約スルモノトス但シ「インボイス」取引ニヨラザル限月內渡シノ約定品ハ此ノ限りニアラズ

第二十條 河岸着又ハ貨車乘ヲ以テ契約シタルモノニシテ本船解取後其ノ積荷ノ一部又ハ全部ガ遭難ニヨリ損傷シタル場合其ノ損傷シタル部分ニ對シ賣主ハ七日間以內ニ代品ヲ以テ契約ヲ履行スルモノトス但シ代品ノ提供不可能ノ場合ハ時價ヲ以テ決済ヲナスモノトス

第二十一條 雜小豆ハ壹袋ノ莫豆(茶豆)混入量百分ノ二以上ノモノハ受渡ニ供用シ得ザルモノトス

第二十二條 現物又ハ入船ヲ以テ賣買ヲナシタルモノハ現物ハ契約ノ日ヨリ入船品ハ陸揚通知ノ日ヨリ五日以內ニ受渡ヲ完了スルモノトス

滿洲產 蘇子、小麻子、胡麻、大麻子 取引條件

覺書
昭和五年七月十五日協定
昭和六年一月十三日改正
昭和十年七月三十日改正

日本全國製油業聯合會々員ト滿洲重要物產組合員トノ間ニ於ケル滿洲產製油原料(大豆棉實ヲ除ク)ノ取引ニ關シテハ以下所定ノ條項ニ依リ本協定ノ主旨ニ反スル特約ヲ許サザルモノトス

當事者ノ一方ガ前記聯合會員又ハ組合員以外ノ場合ト雖モ本規定ニ從フモノトス
此取引條件ヲ「日本製油業聯合條件」ト稱ス

第一條 建値ハ仕向港 C. I. F. 正味和百斤ヲ原則トス但包裝麻袋代金ハ右建値中ニ含ムモノトス
第二條 品質ハ積出地ニ於ケル積出當時ノ普通品ニシテ乾燥ハ尋常ナルモノナルコト
第三條 包裝ハ左ノ通りトス

- 一、胡 麻 青筋新麻袋
 - 二、蘇 子 "
 - 三、小 麻 子 鐵筋新麻袋
 - 四、大 麻 子 青筋新麻袋
- 麻袋ノ口縫ハ特ニ注意ヲ爲シ缺斤ノ防止ニ努ムルモノトス
一袋ノ正味量目ハ左ノ通りトシテ一袋毎ニ明瞭ナル荷印ヲ附スルヲ以テ原則トス
- 一、胡 麻 百三十八斤
 - 一、小 麻 子
 - 北 滿 物 百十三斤
 - 新 京 物 百十三斤

南 滿 物

- 一、蘇 子 百〇八斤
- 一、大 麻 子 百十三斤

新民屯法庫門物

- 百十六斤

四洮線物其他

- 百〇六斤

產地ノ特殊事情ニ依リ袋詰量目ノ異動アルヲ妨ゲズ
麻袋ノ量目ハ一枚二斤ト看做ス
第四條 契約數量ノ單位ハ原則トシテ蘇子、胡麻、小麻子一貨車(二十五聽)大麻子ハ一貨車(二十三聽)トス但シ四洮線大麻子ニ限り一貨車(二十聽)トス

- 一貨車ノ積載量ハ原則トシテ左ノ通りトス
- 一、蘇 子 三六二袋
- 一、小 麻 子
- 北 滿 物 三六二袋
- 新 京 物 三六二袋
- 南 滿 物 三七八袋

- 一、胡 麻 二九七袋
- 一、大 麻 子 三二四袋
- 但シ四洮線物 三〇八袋

止ムヲ得ザル理由アルトキハ契約數量%ノ三以内ノ増減ハ賣主ノ任意トス
浦鹽積ノ場合ニ於ケル契約數量ノ單位ハ賣買兩者ノ協定ニ依ルモノトス

第五條 受渡ノ斤量ハ本船着港後十月以内ニ最初陸揚セラレタル場所ニテ少クモ總數量中一割以上ノ檢量ヲ爲シ送り
狀面ヨリ缺斤一%ヲ超過シタルトキハ一%以上ノ缺斤量ニ付キテハ賣主ト責任トシ 契約値段ニ應ジ遲滞ナク決濟ス
ルモノトス但賣主ハ總看買ノ請求ヲ爲スコトヲ得

量目ノ査定ハ賣買双方ノ立會ニ依ル場合ノ外着地商工會議所其ノ他公認鑑定人ノ檢査ニ依ル
檢査費用及看買費用ハ缺斤ガ賣主ノ責ニ歸シタル場合ニ限り賣主ノ負擔トス

第六條 夾雜物含有歩合ハ滿鐵會社又ハ滿洲國有鐵道ノ檢査ヲ以テ最終トシ 左記標準ニ依ルモノトス但一契約二車以
上ノモノニシテ同一船ニテ積出シタル場合ハ其ノ平均率ニ依ルモノトス
滿鐵會社又ハ滿洲國有鐵道ノ檢査不能ノ地ニ在リテハ日本全國製油業聯合會ノ指定シタル鑑定人ノ鑑定ヲ以テ前項
檢査ニ代フルコトヲ得

- 一、蘇 子

- (イ) 北 滿 物 六分
- (ロ) 吉奉海物物(北鮮積ヲ含ム) 六分
- (ハ) 黑 蘇 子 八分
- 二、小 麻 子
- (イ) 北 滿 物 三分
- (ロ) 新 京 物(京圖線及公主嶺以北新京附近出廻品ヲ含ム) 五分
- (ハ) 南 滿 物 七分
- 三、大 麻 子
- (イ) 新民屯法庫門物 四分
- (ロ) 四洮線物其他 七分
- 但シ鬼皮ハ夾雜物ト看做ス
- 四、胡 麻
- (イ) 新民屯法庫門物(遼陽附近物ヲ含ム) 三分
- (ロ) 八面城物 五分
- (ハ) 北 滿 物 五分

夾雜物量ガ前項標準歩合ヲ超過シタル場合ハ契約値段ニ應ジ左記計算ニヨリ値引スルモノトス

- 一、標準歩合ヲ超過スルコト標準歩合ノ五割以内ノ場合ハ其超過部分ニ對シ一割合トス
 - 一、標準歩合ヲ超過スルコト標準歩合ノ五割以上十割以内ノ場合ハ其超過分ニ對シ一割一・五割合トス
- 標準歩合ヲ超過スルコト標準歩合ノ十割以上ノ場合ハ受ニ供スルコトヲ得ズ

第七條 前條ノ滿鐵會社又ハ指定鑑定人ノ検査成績竝ニ船積證明書ハ遲滞ナク買主ニ送附スルモノトス但奧地船車連絡積ニアリテハ必ズシモ船積證明書ノ送附ヲ要セザルモ検査成績表ノ貨車番號ト船車連絡證券ノ貨車番號ト符合スルコトヲ要ス

前項ノ検査成績表竝ニ船積表證明書ナキモノハ最初陸揚セラレタル場合ニ於ケル商工會議所又ハ公認鑑定人ノ鑑定ニ依リ夾雜物含有歩合ヲ決定ス

但此ノ場合ニ於ケル鑑定費用ハ標準歩合ヲ超過シタル場合ニ限り賣主ノ負擔トス
夾雜物標準歩合ヲ超過シタル場合ハ遲滞ナク其ノ差金ヲ決済スルモノトス

第八條 約定品ヲ積出シタルトキハ賣主ハ約定價格ニ其ノ約一〇%ヲ加ヘタル金額ニ對シW A條件ノ海上保險ヲ附スルモノトス但兩船及陸揚後七日間ノ火災保險ヲ含ム
海難アリタルトキハ保險證券ヲ交附シテ受渡ニ代フ

第九條 約定品ヲ積出シタルトキハ賣主ハ遲滞ナク其ノ船名、品名、數量、荷印ヲ電信ニテ買主ニ通知スルモノトス

但荷印ハ豫メ打合セアル場合ハ此限りニアラズ

前條ノ通知ヲ爲サザルカ又ハ通知ガ遲延シタル爲着地ニ於テ沖取不能トナリタルトキ總揚ニ要シタル餘分ノ費用ハ賣主ノ負擔トス

第十條 品種、限月ノ同一ナル數個ノ契約アルトキハ原則トシテ契約ノ順序ニ依リ積出スモノトス

第十一條 約定品ノ積出ハ期限内ノ分割積出賣主ノ任意トスルモ一回ノ積出ハ第四條ノ數量以下タルヲ得ズ若シ此標準量以下ノ積出ニヨリ着港ニ於テ諸掛嵩ミタルトキハ其ノ差額ヲ賣主ノ負擔トス但不可抗力ニ依ルカ又ハ SHUTO

UTセラレタル場合ハ此ノ限りニアラズ
積出ハ本船積込日ヲ以テ最終トス

第十二條 受渡品ニ對シ苦情發生セル場合ハ買主ハ本船着港後十日以内ニ賣主ニ對シ電信ヲ以テ通知スルモノトス

前項ノ苦情ガ賣買兩者間ニ於テ解決スルニ至ラザル場合ハ賣買兩者協議ノ上仲裁人ヲ選定シ其ノ裁決ヲ以テ解決スルモノトス

前項ノ方法ニ依ルモ解決附カザルカ又ハ仲裁人ノ選定出來ザル場合ハ最初陸揚セラレタル場所ニ於ケル商工會議所若クハ公認鑑定人ノ鑑定ヲ以テ解決スルモノトス

第十三條 買主ハ積出前賣主ニ對シ契約ニ該當スル信用狀ヲ發行スルモノトス

爲替期間ハ原則トシテ左ノ通りトス

- 一、船荷證券ヲ以テ荷爲替ヲ取組ム場合
 - 大連積 一覽後十五日目拂
 - 營口及北鮮各港積 " 二十日目拂
 - 浦鹽積 " 廿五日目拂
 - 二、船車連絡證券ヲ以テ荷爲替ヲ取組ム場合
 - 大連及營口、北鮮各港積 一覽後三十日目拂
 - 浦鹽積 " 四十五日目拂
- 第十四條 約定品ノ積出ハ大連、營口、北鮮各港賣主ノ任意トス

附 則

昭和十年七月三十日改正ノ事項ハ昭和十年年度生産品ヨリ之レヲ適用ス但昭和十年八月十日以前契約品ハ此ノ限りニ非ズ

昭和五年七月十五日

日本全國製油業聯合會
滿洲重要物産組合團

滿洲產棉實取引條件 覺 書

日本全國製油業聯合會々員ト滿洲重要物産組合員トノ間ニ於ケル滿洲產棉實ノ取引ニ關シテハ其ノ直接タルト間接タルヲ問ハズ以下所定ノ條項ニ據ルモノトシ本取引條件ノ主旨ニ背反スル特約ヲ許サズ當事者ノ一方ガ前記聯合會員又ハ組合員以外ノ場合ト雖モ本規定ニ從フモノトス此取引條件ヲ「日本製油業聯合條件」ト稱ス

- 第一條 建値ハ仕向港 C.I.F. 正味和百斤ヲ原則トス但シ包裝麻袋ノ代價ヲ含ム
- 第二條 品質ニ付別ニ表示セザルトキハ其積出當時ニ於ケル普通品ニシテ乾燥ハ尋常ナルモノナルコト夾雜物ハ浴ク之ヲ篩ヒ包裝内容ヲ均一シタル精撰品タルコトヲ要ス
- 第三條 取引品ノ銘柄ニ付表示セザルトキハ黑實又ハ洋實ヲ以テ標準トス
 - 白實ハ百斤ニ付金貳拾錢ノ格下ヲ以テ代用スルコトヲ得
 - 一包裝内ニ白實混入ノモノハ混入歩合一割ヲ一單位トシ三割以内ハ無條件トシ三割ヲ超ユル物ハ一單位毎ニ金貳錢ノ格下ヲ以テ受渡シスルコトヲ得但一割未滿ノ端數ハ一單位ニ繰上ゲ計算ス
 - 白實又ハ白實混入ノモノハ「インボイス」ニ明記シソノ格差ハ荷爲替取組ノ際計算控除スルモノトス

第四條 包麻ハ滿鐵會社ノ大豆混合保管合格同程度ノ舊麻袋トス

麻袋ノ口縫ハ混合保管大豆ニ使用ノモノト同等ノ麻糸ヲ以テ縫付ケ缺陷ノ防止ニ努ムルモノトス

包裝麻袋ノ適否ニ關シテハ滿鐵會社又ハ滿洲國有鐵道ノ検査ヲ以テ最終トス

第五條 一袋ノ正味量目ハ洋實黑實ヲ問ハズ每袋百〇八斤均一トシテ一袋毎ニ明瞭ナル荷印ヲ附スルモノトス

白實又ハ洋實ハ各別ノ荷印ヲ以テ表示スルコトヲ要ス

麻袋ノ量目ハ一枚二斤ト看做ス

第六條 契約ノ數量單位ハ滿鐵一貨車(二十三疋、三百四十八袋)トス

已ムヲ得ザル事由アルトキハ契約數量ノ三%以内ノ増減ハ賣主ノ任意トス

第七條 受渡ノ斤量ハ本船着港後十日以内ニ最初陸揚セラレタル場所ニ於テ少クトモ總數量中一割以上ノ檢量ヲナシ

送狀面ヨリ缺陷一%ヲ超過シタルトキハ一%以上ノ缺陷量ニ付テハ賣主ノ責任トシ契約値段ニ應ジ遲滞ナク決濟ス

ルモノトス但シ賣主ハ總看貫ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第八條 夾雜物ノ含有歩合ハ百分ノ一・五以内ヲ標準トシ滿鐵會社又ハ滿洲國有鐵道ノ検査ヲ以テ最終トス但シ一契約

二車以上ノモノニシテ同一船ニテ積出シタル場合ハ平均率ニ依ルモノトス

夾雜物分量ガ前項標準歩合ヲ超過シタル場合ハ契約値段ニ應ジ左記計算ニヨリ値引スルモノトス

一、標準歩合ヲ超過スルコト百分ノ一・五マデハ一對一ノ割合トス



一、標準歩合ヲ超過スルコト百分ノ一・五以上百分ノ二・五マデハ一對一・五ノ割合トス

夾雜物百分ノ四ヲ超過シタル場合ハ受渡ニ供スルコトヲ得ズ

第九條 第八條夾雜物ノ検査證明書、第四條包裝麻袋ノ検査證明書ハ「インボイス」ト共ニ荷爲替ニ添附スルモノトス

但該検査證明書ハ當該貨物ノ積載貨車番號、又ハ積載船名トノ連絡ヲ證スルモノタルコトヲ要ス

滿鐵會社又ハ滿洲國有鐵道ノ検査證明書ヲ得ルコト不能ノ地ニ在リテハ日本全國製油業聯合會ノ指定シタル鑑定人

ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十條 約定品ヲ積出シタルトキハ賣主ハ約定價格ニ其ノ一〇%ヲ加ヘタル金額ニ對シW A條件ノ海上保險ヲ附スル

モノトス但シ兩船及陸揚後七日間ノ火災保險ヲ含ム

海難アリタルトキハ保險證券ヲ交附シテ受渡ニ代フ

第十一條 約定品ヲ積出シタルトキハ賣主ハ遲滞ナク其ノ船名、品名、數量、荷印ヲ電信ニテ買主ニ通知スルモノトス

但荷印ハ豫メ打合セアル場合ハ此限リニアラズ

前條ノ通知ヲ爲サザルカ又ハ通知ガ遲滞シタルタメ着地ニ於テ沖取不能トナリタルトキ總揚ニ要ジタル餘分ノ費用

ハ賣主ノ負擔トス

第十二條 品種限月ノ同一ナル數個ノ契約アルトキハ原則トシテ契約ノ順序ニ依リ積出スモノトス

第十三條 約定品ノ積出ハ期限内ノ分割積出賣主ノ任意トスルモ一回ノ積出ハ第六條ノ數量以下タルヲ得ズ若シ此標

準量以下ノ積出ニヨリ着港ニ於テ諸掛嵩ミタルトキハ其ノ差額ヲ賣主ノ負擔トス但不可抗力ニ依ルカ又ハ SHUTO
UL セラレタル場合ハ此限りニアラズ

契約ノ積出期限ハ本船積込日ヲ以テ最終トス

第十四條 受渡品ニ對シ苦情發生セル場合ハ買主ハ本船着港後十日以内ニ賣主ニ對シ電信ヲ以テ通知スルモノトス

前項ノ苦情ヲ賣買兩者間ニ於テ解決スルニ至ラザル場合ハ賣買兩者協議ノ上仲裁人ヲ選定シ其ノ裁決ヲ以テ解決ス
ルモノトス

前項ノ方法ニ依ルモ解決附カザルカ又ハ仲裁人ノ選定出來ザル場合ハ最初陸揚セラレタル場所ニ於ケル商工會議所
若クハ公認鑑定人ノ鑑定ヲ以テ解決スルモノトス

第十五條 買主ハ積出前賣主ニ對シ契約ニ該當スル信用狀ヲ發行スルモノトス

爲替期限ハ原則トシテ左ノ通りトス

一、船荷證券ヲ以テ荷爲替ヲ取組ム場合

大連積

一覽後十五日目拂

營口積

一覽後二十日目拂

一、船車連絡證券ヲ以テ荷爲替ヲ取組ム場合

大連積

一覽後三十日目拂

營口積

附 則

本覺書ニ依ル取引條件ハ昭和十年年度生産品ヨリ之ヲ適用ス但昭和十年八月十日以前ノ契約品ハ此ノ限りニ非ズ

昭和十年七月卅一日

日本全國製油業聯合會
滿洲重要物產組合團



